

MAISONS DES ILLUSTRÉS
MINISTÈRE DE LA CULTURE

著名人ゆかりの家
ガイド

- イル・ド・フランス地方 -

GUIDE DES MAISONS DES ILLUSTRES
EN ÎLE-DE-FRANCE

文化省



MAISONS DES ILLUSTRES EN ÎLE-DE-FRANCE
..... 2018

日本語訳：飛幡祐規

「**著名人ゆかりの家**」には、私たちの国の文化史を理解するのに肝要な記憶をとどめた場所が集められています。これらの家は時代をとおして、各地方の多様な遺産を示し、さまざまな面を表す見学スポットのネットワークをつくっています。

「著名人ゆかりの家」というラベルは2011年に文化・通信省によってつくられました。このラベルは見学者に、そこが著名な人物の歴史を語る建築や内装、物品や作品を保存し、傑出した雰囲気の中で想像力と発見の喜びを喚起する場所であることを示します。

ラベルは5年間、年間40日以上見学できる家について与えられます。史実を独創的に紹介していること、良質な文化プログラム、多様な公衆に合わせた見学のアプローチ、規則的な文化的催しの企画などを保証するラベルです。

イル＝ド＝フランス地域圏文化事業局は地方自治体、NPOや民間所有地とパートナーシップを結び、都市と保養地、セーヌ河やその支流のオワーズ川、イエール川、ロワン川、モラン川沿いの文化遺産に光を当てます。

この「著名人ゆかりの家」ガイド第二版はテーマごと、あるいは地理的な散策をとおして、イル＝ド＝フランス地域圏と一部それ以外の37のスポットを発見できるようにつくられています。

美しい発見がたくさんありますように一どうぞ見学をお楽しみください。

ニコル・ダ・コスタ NICOLE DA COSTA
イル＝ド＝フランス地域圏文化事業局 局長

PARIS

MAISONS DE VICTOR HUGO, PARIS ET GUERNESEY

BIBLIOTHÈQUE DE L'ARSENAL - CHARLES NODIER

MUSÉE CURIE

MARIE CURIE, IRÈNE ET FRÉDÉRIC JOLIO-CURIE

MAISON D'AUGUSTE COMTE

MUSÉE NATIONAL EUGÈNE-DELACROIX

MUSÉE NATIONAL GUSTAVE MOREAU

MUSÉE PASTEUR

MAISON DE BALZAC

MUSÉE CLEMENCEAU

APPARTEMENT-ATELIER DE LE CORBUSIER

SEINE-ET-MARNE

MAISON NATALE DE LOUIS BRAILLE

MAISON DE PIERRE MAC ORLAN

ATELIER-MUSÉE ROSA BONHEUR

MUSÉE DÉPARTEMENTAL STÉPHANE MALLARMÉ

YVELINES

MAISON JEAN MONNET

LES MAISONNETTES - NADIA ET LILI BOULANGER

MAISON LÉON BLUM

CHÂTEAU DE MONTE-CRISTO - ALEXANDRE DUMAS

CHÂTEAU DE MÉDAN - MAURICE MAETERLINCK

MAISON ÉMILE ZOLA

MAISON-MUSÉE MAURICE RAVEL

MAISON ELSA TRIOLET - LOUIS ARAGON

MAISON NATALE DE CLAUDE DEBUSSY

MUSÉE DÉPARTEMENTAL MAURICE DENIS

MAISON-MUSÉE RAYMOND DEVOS

CHÂTEAU DE VAUX-SUR-SEINE - CARLO MAROCHETTI

ESSONNE

MAISON JEAN COCTEAU

MAISON-ATELIER FOUJITA

MAISON CAILLEBOTTE

HAUTS-DE-SEINE

BIBLIOTHÈQUE PAUL MARMOTTAN

LA VALLÉE-AUX-LOUPS - MAISON DE CHATEAUBRIAND

VILLA DES BRILLANTS - AUGUSTE RODIN

MAISON DES JARDIES - LÉON GAMBETTA

VAL-D'OISE

MAISON-ATELIER ÉMILE BOGGIO

MAISON-ATELIER DAUBIGNY

MAISON DU DOCTEUR GACHET

MUSÉE JEAN-JACQUES ROUSSEAU

CRÉDITS PHOTOGRAPHIQUES

CARTE DES SITES

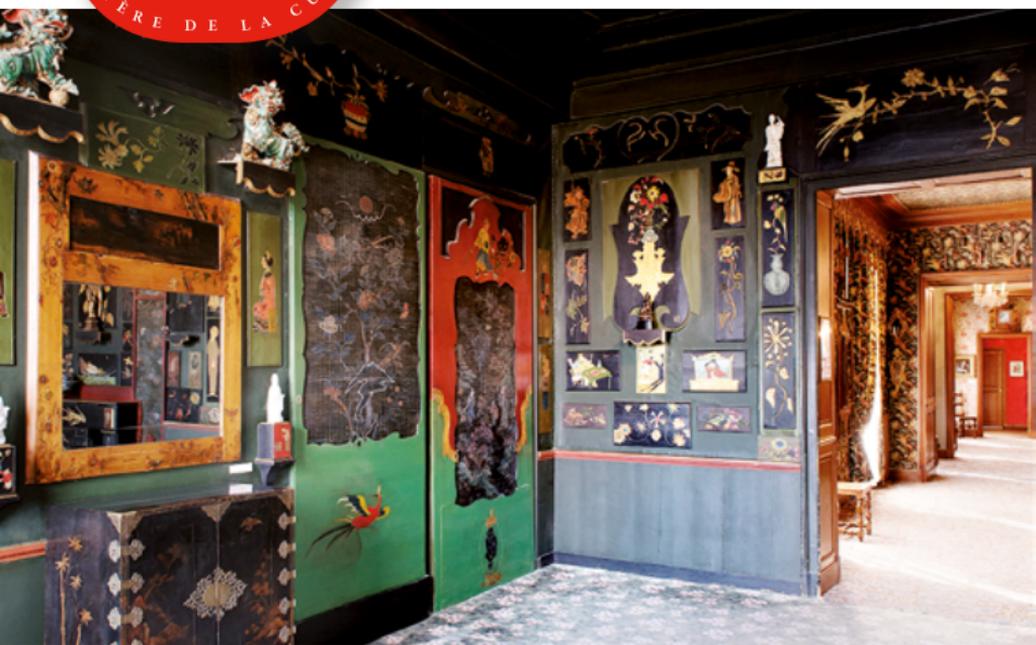
パリ	
ヴィクトル・ユーゴーの家 パリ、ガーンジー島	p.4
アルスナル図書館 シャルル・ノディエ	p.6
キュリー博物館	
マリ・キュリー、イレーヌとフレデリック・ジョリオ＝キュリー	p.7
オーギュスト・コントの家	p.8
国立ウジェーヌ・ドラクロワ美術館	p.9
ギュスターヴ・モロー国立美術館	p.10
パスツール博物館	p.11
バルザックの家	p.12
クレマンソー博物館	p.13
ル・コルビュジエのアパルトマン・アトリエ	p.14
セーヌ＝エ＝マルヌ県	
ルイ・ブライユの生家	p.15
ピエール・マッコルランの家	p.16
ローザ・ボヌールのアトリエ・美術館	p.17
県立ステファヌ・マラルメ博物館	p.18
イヴリーヌ県	
ジャン・モネの家	p.19
メゾネット ナディアとリリ・ブランジェ	p.20
レオン・ブルムの家	p.21
モンテ・クリスト城 アレクサンドル・デュマ	p.22
メダン城 モーリス・メーテルリンク	p.23
エミール・ゾラの家	p.24
モーリス・ラヴェルの家・博物館	p.25
エルザ・トリオレとルイ・アラゴンの家 ムーラン・ド・ヴィルヌーヴ	p.26
クロード・ドビュッシーの生家	p.27
モーリス・ドニ県立美術館	p.28
レーモン・ドゥヴォスの家・博物館	p.29
ヴォー＝シュル＝セーヌ城 カルロ・マロケッティ	p.30
エソンヌ県	
ジャン・コクトーの家	p.31
フジタの家・アトリエ	p.32
カイユボットの家	p.33
オー＝ド＝セーヌ県	
ポール・マルモッタンの図書館	p.34
シャトーブリアンの家 ラ・ヴァレ＝オ＝ルー	p.35
ロダンの館 ヴィラ・デ・ブリアン	p.36
レオン・ガンベッタの家 メゾン・デ・ジャルディ	p.37
ヴァル＝ドワーズ県	
エミリオ・ボッジオの家・アトリエ	p.38
ドービニーの家・アトリエ	p.39
医師ガシェの家	p.40
ジャン＝ジャック・ルソー博物館	p.41
写真のクレジット	p.42
地図	p.44

ヴィクトル・ユーゴーの家

パリ、ヴォージュ広場

ユーゴーが
1832年から
1848年まで
住んだアパル
トマンで、彼
の人生の軌跡
を三つの時期
(亡命以前、
亡命中、亡命
後)をとおし
て辿ることが
できます。

1832年にヴィクトル・ユーゴーVICTOR HUGOは妻の
アデル・フシェと四人の子どもと共に、ヴォージュ広
場(当時の名はロワイヤル広場)にあるロアン＝ゲメ
ネ館の3階に住み始めました。彼はここで、『ルクレッ
ティア・ボルジア』『パドヴァの僭主アンジェロ』『リュ
イ・ブラース』『ビュルグラヴ』などロマン主義戯
曲の大半と詩集『黄昏の歌』『内なる声』を執筆し、
『レ・ミゼラブル』を書き始めます。1841年にアカデ
ミー・フランセーズの会員、1845年に貴族院議員にな
るなど、この時期、栄誉に包まれた年月を送ったユー
ゴーは自宅に、多くの作家やアーティスト、政治家を
招きました。政治活動にますます力を入
れ、共和主義者になった彼は1848年、パ
リの議員に選出され、同年の6月蜂起の
後に、このアパルトマンを去ります。この
邸宅は1903年、ユーゴーの友人で劇作家
のポール・ムーリスの提唱により、博物館
になりました。



ヴィクトル・ユーゴーの家 Maison de Victor Hugo



6 place des Vosges - 75004 Paris

パリ4区ヴォージュ広場6番地



連絡先 : +33 1 42 72 10 16

ガイド付見学

www.maisonvictorhugo.paris.fr |



月曜以外年中無休 10時～18時 一部の祝日閉館。



Bastille, Saint-Paul, Chemin-Vert

バステューユ(1号線、5号線、8号線)、

サンポール(1号線)、シュマン＝ヴェール(8号線) 駅



20, 29, 69, 76, 96番





ガーンジー島、オートヴィル・ハウス

ルイ＝ナポレオン・ボナパルト（ナポレオン三世）による1851年12月2日のクーデターの後、

ヴィクトル・ユーゴー VICTOR HUGOは英国王室領のガーンジー島に亡命し、オートヴィル・ハウスを購入しました。彼はここで政治的な闘いをつづけ、文学では第二期に入って『レ・ミゼラブル』『笑う男』『海の労働者』などを執筆します。とりわけ注目すべきは、ユーゴーがこの家の内装をすべて構想し、家全体を総合芸術作品に変化させたことです。愛人の女優ジュリエット・ドルエ



オートヴィル・ハウスはまさに、「全階にユーゴーが自筆を入れた家だ。幾部屋にもわたる彼の詩なのだ。」（ユーゴーの息子シャルル）

のために考案された内装の一部は、現在ではパリのユーゴーの家の中に設置されていますが、オートヴィル・ハウスとその内装は、この分野におけるユーゴーの創造的な才能を展示した唯一の場所です。1927年にユーゴーの子孫によってパリ市に寄贈されたオートヴィル・ハウスは、文学者、芸術家、そして社会と政治にコミットした人道主義者としてのユーゴーの優れた才能が結合された、象徴的な場所です。

オートヴィル・ハウス Hauteville House

38, Hauteville, St Peter Port - Guernsey
GY1 1DG - Îles anglo-normandes

ガーンジー島 セント・ピーター・ポート、オートヴィル38

連絡先 : +44 14 81 721 911

www.maisonsvictorhugo.paris.fr | 

2019年に再オープン。

ガイド付見学



Saint Malo, Granville, Barneville-Carteret ou Diellette

サン・マロ、グランヴィル、バルヌヴィル＝カルトレ、ディエレットからフェリー



アルスナル図書館

作家・文学評論家のシャルル・ノディエ CHARLES NODIERは、同時代の文学の発見に貢献しました。フランスにおけるロマン派文学の開花に、決定的な影響を与えた人物です。1824年にアルスナル

当初は多様な分野の書籍を集めた図書館でしたが、現在では主に16～19世紀フランス文学と書物の歴史専門の図書館です。バステューク監獄にあった文書も保管されています。

図書館の長に任命されたノディエは、当時の最も著名で影響力の強かった文学サロンの一つをこの場所で開き、ヴィクトル・ユーゴーやアルフレッド・ド・ヴィニー、アルフォンス・ド・ラマルティエヌなどを招きま



した。ノディエは想像力豊かな文学作品の著者でもあり、そのため1833年に彼はアカデミー・フランセーズ会員に選ばれました。その翌年、ノディエは「蔵書家会報」を創刊し、蔵書の歴史における中心的存在となりました。

アルスナル図書館 Bibilothèque de l'Arsenal

1 rue de Sully - 75004 Paris

パリ4区シュリー通り1番地

連絡先 : +33 1 53 79 39 39 - www.bnf.fr

ガイド付見学

閲覧室年中無休 月曜～金曜 10時～18時 土曜 10時～17時
ガイド付見学は要予約。



Saint-Paul, Bastille, Sully-Morland

サンポール(1号線)、バステューク(1、5、8号線)、

シュリー＝モルラン(7号線) 駅



バス 65, 69, 76, 96番



キュリー博物館

「マリ・キュリーは自分の実験室を重要な研究所にしただけでなく、快適な仕事場にするのも願っていました」(イレーヌ・キュリー)

マリ・キュリー MARIE CURIE はポーランド出身のフランスの女性科学者です。1903年に夫のピエール・キュリーと共に、自然放射能現象に関する研究でノーベル物理学賞を受賞し、1911年には、ラジウム発見とその研究でノーベル化学賞を受けました。ピエールが1906年に亡くなった後の1908年11月16日、彼女は女性で初めてフランスの大学で正教授の資格を受けました。1914年には、彼女のためにラジウム研究所が創立されました。長女のイレーヌ IRÈNE (1897-1956) も物理学者として、そこで一緒に働きました。研究所の実験助手だったフレデリック・ジョリオ FRÉDÉRIC JOLIOT (1900-1958) とイレーヌは、1926年に結婚しました。ふたりは共同研究によって人工放射能を発見し、1935年にノーベル化学賞を受賞しました。3人が重要な研究を指導したラジウム研究所は今日、キュリー研究所内のキュリー博物館になっています。



キュリー博物館 Musée Curie

1 rue Pierre-et-Marie-Curie - 75005 Paris

パリ5区ピエール=エ=マリ・キュリー通り1番地



連絡先 : +33 1 56 24 55 33 | <http://musee.curie.fr> | 

水曜～土曜 13時～17時 祝日、クリスマス休暇と8月閉館

月に2回土曜にガイド付見学

要予約 (サイトにプログラム掲載)

ガイド付見学



B線 Luxembourg リュクサンブール駅



Place Monge, Cardinal Lemoine プラス・モンジュ(7号線)

カルディナル・ルモワヌ(10号線) 駅



バス 21, 27, 38, 47, 82, 84, 85, 89番



オーギュスト・コントの家

哲学者・社会学者のオーギュスト・コント AUGUSTE COMTE は、実証主義の父とみられています。1817年から1824年までサン＝シモン伯爵の秘書を務めた後、コントは独自の認識哲学を確立し、社会学

(初めは社会物理学と名づけた)を創始しました。1854年に出版された『実証的政治システム』において彼は人類の宗教を発明し、自分の哲学を政治的・道徳的に転換させました。

コントは1841年～1857年、ムッシュー＝ル＝プランス通りのアパートマンに養女と共に暮らしました。この場所に、プラトニックな愛情を捧げたクロティルド・ド・ヴォーを招き、また「人類教」のメンバーを集めました。『実証哲学講義』の最後の巻もこのアパートマンで著述されました。



3階にある
アパートマン
は修復され、
コントが亡く
なった時の状
態に再現され
ました。
2階にはコン
トの著書が保
管された図書
室があります。

オーギュスト・コントの家 Maison d'Auguste Comte

10 rue Monsieur-le-Prince - 75006 Paris

パリ6区ムッシュー＝ル＝プランス通り10番地

ガイド付見学

連絡先: +33 1 43 26 08 56 | www.augustecomte.org | 

火曜18時～21時 水曜14時～17時

年中ガイド付グループ見学可、要予約。



B線 Luxembourg リュクサンブール駅



Odéon オデオン駅(4号線、10号線)



バス 58, 63, 70, 84, 86, 87番



国立ウジェーヌ・ドラクロワ美術館

「私の住まいは本当にすてきだ…小さな庭の眺めとアトリエののどかな外観は、私をいつも楽しい気持ちにさせてくれる」
(ウジェーヌ・ドラクロワ)

大画家のウジェーヌ・ドラクロワEUGÈNE DELACROIXは、ロマン主義運動のリーダー格でした。文学、神話、東洋、同時代の事変などを題材にした革新的な作品は時代に痕跡を残し、セザンヌ、モネ、ドガをはじめ、数多くの芸術家に影響を与えました。ドラクロワは1857年、礼拝堂の壁画の注文を受けたサン＝シュルピス教会と、6度の失敗の後によりややく会員に選ばれた芸術アカデミーに近づくため、フルスタンベール通りに住み始めました。ドラクロワ自身が庭に面してアトリエをつくらせ、アパルトマンを整え、1863年8月13日に亡くなるまで、ここに住みました。その60年後、画家のモリス・ドニが会長を務める「ウジェーヌ・ドラクロワ友の会」のおかげで、アトリエは取り壊しを免れ、1932年からこの場所は美術館になりました。



国立ウジェーヌ・ドラクロワ美術館
Musée national Eugène-Delacroix
6 rue de Fürstenberg - 75006 Paris
パリ6区フルスタンベール通り6番地

ガイド付見学

連絡先: +33 1 44 41 86 50 | www.musee-delacroix.fr |



火曜以外年中無休 9時30分～17時30分 1月1日、5月1日、
12月25日閉館。毎月第1木曜夜間21時まで開館。
毎日15時にガイド付見学。



Saint-Germain-des-Prés, Mabillon



サンジェルマンデブレ (4号線)、マビヨン (10号線) 駅
バス 39, 63, 70, 86, 95, 96 番





ギュスターヴ・モロー 国立美術館

画家・素描家・彫刻家のギュスターヴ・モローGUSTAVE MOREAUは、象徴主義絵画の巨匠です。作品には、神話や文学に題材をとった幻想的な世界が表さ

2階のアパルトマンには家族の肖像画や、テオドル・シャセリオー、ウジェーヌ・フロマンタン、エドガー・ドガなど友人画家から贈られた作品が飾られており、画家の愛着が感じられます。

れています。パリのエコール・デ・ボザール（官立美術学校）で教え、後の前衛画家、アンリ・マティス、アルベール・マルケ、ジョルジュ・ルオーなどに影響を与えました。



モローは晩年、自宅を美術館に改造することを決め、フランス国家にアトリエと作品を遺贈しました。（油絵とカルトン850、水彩画350、素描とトレース14000以上、蝋彫刻15）

ギュスターヴ・モロー国立美術館
Musée national Gustave Moreau
14 rue de La Rochefoucauld - 75009 Paris
パリ9区ラ・ロッシュフーコー通り14番地

ガイド付見学



連絡先: +33 1 48 74 38 50 | www.musee-moreau.fr | 
年中無休 月・水・木曜 10時～12時45分、14時～17時15分
金・土・日曜 10時～17時15分 1月1日、5月1日、12月25日閉館
ガイド付見学は要予約。

- (M) Trinité, Saint-Georges, Pigalle トリニテ、サン＝ジョルジュ (12号線)、ピガール (2号線、12号線) 駅
- (BUS) 26, 32, 43, 67, 68, 74, 81 番



パスツール博物館



パスツール生前のアパルトマンがそのまま残っていて、19世紀パリの本物の内装が見られます。

微生物学の先駆者であるルイ・パスツール LOUIS PASTEUR は、フランスの最も偉大な科学者のひとりです。低温殺菌法を発明し、1885年の狂犬病ワクチンの開発によって世界的な名声を得ました。パスツール研究所は、国際的な寄付によって多額が集まり、1888年に創立されました。研究と公衆衛生、教育を使命とする民間の協会です。亡くなる前の7年間、この研究所内に整えられたアパルトマンにパスツールは住みました。1895年6月13日、病気のパスツールはここを去ってマルヌ＝ラ＝コケットに移り、そこで同年9月28日に亡くなりました。国葬のあと、パスツールの遺骸は研究所内にあるビザンティン様式の美しい地下聖堂に葬られました。



パスツール博物館 Musée Pasteur
25 rue du Docteur-Roux - 75015 Paris
パリ15区ドクトール・ルー通り25番地
連絡先: +33 1 45 68 82 83



www.pasteur.fr/fr/institut.pasteur/musee-pasteur



月曜～金曜開館 祝日と8月閉館
団体見学要予約 (10人以上)



Pasteur, Volontaires



パスツール(6号線、12号線)、ヴォロンテール(12号線) 駅
39, 70, 88, 89, 95 番





バルザックの家

フランスの代表的な作家オノレ・ド・バルザック HONORÉ DE BALZACは、現代性を保つ19世紀のフランスの社会関係を分析しようとした壮大な作品、『人間喜劇』の作者で

す。91にわたる小説、短編、物語とエッセイから構成されるこの大作には、数千人もの人物が登場し、すべてのジャンルが表現されています：幻想的・哲学的小説の『あら皮』、リアリズム小説の『ゴリオ爺さん』、詩的な『谷間のゆり』、歴史小説の『ふくろう党』等々。バルザックの作品はギュスターヴ・フローベールやエミール・ゾラ、マルセル・ブルーストにインスピレーションを与えました。

ここパッシーの家は、バルザックがパリで暮らした住居のうち、今日残る唯一のもので、彼は1840年からこの家に7年間住み、執筆に没頭しました。

書齋に残る小さな机の上で、バルザックは『人間喜劇』全編を校正し、数編の大傑作を執筆しました。



バルザックの家 Maison de Balzac

47 rue Raynouard - 75016 Paris パリ16区レヌアール通り47番地

連絡先: +33 1 55 74 41 80 | www.maisondebalzac.paris.fr |

月曜と祝日以外年中無休 10時 ~ 18時

ガイド付見学



パリの文学散歩講師付見学の一部。

月に1度日曜15時30分にイベント



Boulaivilliers, Avenue du Président Kennedy

ブーランヴィリエ、ケネディー大統領通り駅



Passy, La Muette

パッシー(6号線)、ラ・ミュエット(9号線)駅



22, 32, 50, 70, 72番

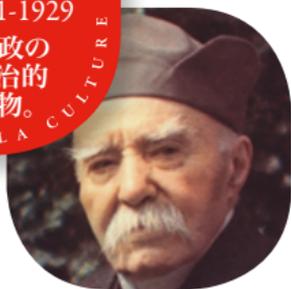




MAISONS DES ILLUSTRÉS
MINISTÈRE DE LA CULTURE

ジョルジュ・クレマンソー
1841-1929

第三共和政の
知的・政治的
主要人物。



クレマンソー博物館

政府の高官として知られるジョルジュ・クレマンソー GEORGES CLEMENCEAUは、1870年代に政治家として活動を始めました。パリ・コミュン直前のモンマルトルの区長、第三共和政では国民

クレマンソーは官邸に住むより自宅から通うことを好みました。執筆するときは自分の寝室の仕事机か、訪問者を迎えていた書斎にある馬蹄型の大きなテーブルに向かいま

議会議員と元老院議員、内務大臣、第一次大戦時の戦争大臣、そして首相を2度務めました。峻厳な政治のやり方から「虎」と呼ばれた彼は、第一次大戦終結までの数ヶ月間、最も重要な役割を演じました。芸術愛好家でアジア美術の蒐集家だったクレマンソーは、1896年にフラン克蘭通りのアパートマンに引っ越し、亡くなるまで住みました。アパートマンはその当時のままに保存されています。2階には2017年、クレマンソー首相就任100周年に資料ギャラリーがリニューアルされ、クレマンソーの政治キャリアの歩み、文学活動、当時の世界と芸術家との関係が示された新しい見学コースになっています。



クレマンソー博物館 Musée Clemenceau
8 rue Benjamin Franklin - 75116 Paris
パリ16区バンジャン・フラン克蘭通り8番地



ガイド付見学

連絡先: +33 1 45 20 53 41 | www.musee-clemenceau.fr | 



火曜～土曜 14時～17時30分 祝日と8月閉館。
月に1度土曜にガイド付見学、団体見学も可、要予約。



Boulayvilliers
ブーランヴィリエ



Passy ou Trocadéro
パシー(6号線)、トロカデロ(6号線、9号線)駅



22, 32, 63, 72番



ル・コルビュジェのアパルトマン・アトリエ

1934年から
亡くなる1965
年まで暮らした
このアパルト
マンを、ル
・コルビュジ
エは絵画を描
くアトリエと
しても使いま
した。彼は生
涯をとおして
毎日、絵を描
きました。

建築家・都市計画専門家・
画家・作家のル・コルビュジェ
LE CORBUSIERは、モダニズム
運動の主要人物のひとりです。
「モデュール」(人体の寸法
と黄金比から作った建築物
の基準寸法)理論を構想し、
コンクリートの造形的な特質
を生かした、機能的かつ詩的な建築物をつくりました。
モリートル通りにある建物の最上階2フロアに位置する
アパルトマンは1931年～1934年、ル・コルビュジェと彼
の従兄弟で共同制作者のピエール・ジャンヌレによつ
て構想されました。ガラスとコンクリート、金属を調和的
に使ったこの建物は、今日でも驚くほどモダンです。この建築によって、1952年にマルセイユの「ユニテ・ダビタシオン」で実現された「輝く都市」理論を実験することができました。ル・コルビュジェの建築物は2016年、ユネスコの世界遺産に登録されました。



ル・コルビュジェのアパルトマン・アトリエ

Appartement-atelier de Le Corbusier

24 rue Nungesser-et-Coli - 75016 Paris

パリ16区ナンジェセール＝エ＝コリ通り24番地

ガイド付見学

連絡先: +33 1 42 88 75 72 | www.fondationlecorbusier.fr |



2018年6月に再オープン

土曜10時～13時、13時30分～17時。他の日は要予約。



Porte d'Auteuil, Michel-Ange – Molitor

ポルト・ドトゥイユ (10号線)

ミケランジュ・モリートル (9号線、10号線) 駅



PC1番, Porte Molitor ポルト・モリートル下車

32番 Porte d'Auteuil ポルト・ドトゥイユ下車



ルイ・ブライユの生家

盲人と強度の弱視者用の文字体系を開発したルイ・ブライユLOUIS BRAILLEは、セヌ＝エ＝マルヌ県の村クーヴレで生まれました。彼は3歳のとき、馬具製造職人である

博物館になったブライユの生家には、職人だった父親の工房が再現され、ブリ地方特有の農家の内装が保たれています。

父親の道具で、自分の目を傷つけてしまいました。感染症が進み、2年後には全盲となります。10歳のときに故郷の村を離れてパリ王立盲学校で学ぶことになり、そこで6点式の点字を発明し、後には音楽を教えました。1852年に亡くなってクーヴレに埋葬されました。ブライユの両手の遺骨は、クーヴレの公共墓地にある彼の墓の上、骨壺に保管されています。1952年6月21日に遺体はパリのパンテオンに移されました。



ルイ・ブライユの生家 Maison natale de Louis Braille

13 rue Louis Braille 77700 Coupvray

クーヴレ、ルイ・ブライユ通り13番地

連絡先: +33 1 60 04 82 80 | musee.louisbraille@orange.fr



ガイド付見学



月曜閉館、金曜はグループ見学のみ。

4月～9月: 10時～12時、14時～18時

10月～3月: 14時～17時



高速A4 14番出口 Lagny-sur-Marne ラニ＝シュル＝マルヌ方面



Ligne P(gare de l'Est) Esbly, bus n°6

P線(東駅発)エスブリ駅からバス6番(週日のみ)



Val d'Europe ヴァル・デューロップ駅



「私が毎日暮らすこの小さな家は、ハンティングやゴルフ・ウェアのように、私の身体にぴったりなじんでいる。着心地がよくて、なぜ選んだか忘れてしまった服のように。」
(ピエール・マッコルラン)

ピエール・マッコルランの家

ピエール・マッコルラン PIERRE MAC ORLAN 本名ピエール・デュマルシェ)はフランス北部ペローヌで生まれた作家です。ソンム県とオルレアンで子ども時代を過ごした後、ルーアンの印刷所で校正係として働き始めました。20世紀初頭にパリに移り、ギヨーム・アポリネールと親交を結びます。第一次世界大戦中1914年に徴兵され、負傷して前線から退きました。『恋する潜水艦』(1917年)の後、マッコルランは数多くの記事、詩や小説を書き、自ら「社会的幻想文学」と呼ぶ作品群を構築しました。マルセル・カルネ監督による映画化で後世に名を残した『霧の波止場』を出版した1927年、マッコルランはサン＝シール＝シュル＝モランに家を構えました。



ピエール・マッコルランの家 Maison de Pierre Mac Orland
17 avenue de la Ferté-sous-Jouarre 77750 Saint-Cyr-sur-Morin
サン＝シール＝シュル＝モラン、ラ・フェルテ＝スー＝ジュアール
大通り17番地



連絡先: +33 1 60 24 46 00 | www.musee-seine-et-marne.fr
土曜と水曜の午後以外年中無休10時～12時30分14時～17時30分
(7、8月は18時まで) 12月24日～1月1日と5月1日閉館
ガイド付見学要予約。

ガイド付見学



高速 A4, La Ferté-sous-Jouarre / Saint-Jean-les-Deux-Jumeaux,
ラ・フェルテ＝スー＝ジュアール/サン＝ジャン＝レドゥー＝ジュモール
出口からRebaisルベ方面



P線(東駅発) La Ferté-sous-Jouarre
ラ・フェルテ＝スー＝ジュアール駅





ローザ・ボヌールのアトリエ・美術館

ローザ・ボヌール ROSA BONHEUR はとりわけ英国とアメリカ合衆国で名声を得た、国際的な動物画家です。1859年に彼女は、パ

「それは独自の大きな屋敷です。スタイルは少しオランダ風で、美しい物と不思議な文献がたくさんあります。」(ジョルジュ・カン)

リのアサス通りからフォンテーヌブローの森に接したシャトー・ド・ビーに引っ越します。ボヌールはそこに、自分の絵画に必要な空間と光が得られるように、ジュール・ソルニエの設計でネオゴシック様式のアトリエを建てさせます。

1865年、ナポレオン三世皇妃のウジェニーがこの場所を訪れ、彼女にレジオンドヌール勲章のシュヴァリエ(5等)を授賞しました。ボヌールはこの勲章を与えられた初の女性アーティストです。1889年のパリ万博の際、有名なバッファロー・ビルも彼女を訪ねて、アメリカ先住民スー族の衣装を贈呈しました。その衣装は現在もアトリエに展示されています。



ローザ・ボヌールのアトリエ・美術館

Atelier-musée Rosa Bonheur
Château de By - 77810 Thomery
トムリー、シャトー・ド・ビー

連絡先: +33 6 98 30 89 70 | www.chateau-rosa-bonheur.fr
contact@chateau-rosa-bonheur.fr | 

ガイド付見学

2018年4月半ばから毎日10時~17時、要予約。



高速A6 Fontainebleauフォンテーヌブロー出口
Thomeryトムリー方面



R線(リヨン駅発)Thomeryトムリー駅



県立ステファヌ・マラルメ博物館

象徴派の代表的詩人ステファヌ・マラルメ STÉPHANE MALLARMÉ は、若い頃から詩を書き始めました。マラルメは「海の微風」

シンプルで田舎風、フォンテーヌブローの森に面したセーヌ河岸にあるこの「川べりの小さな家」は、一目でステファヌ・マラルメの気に入りました。

や、クロード・ドビュッシーが曲をつけた「半獣神の午後」など、暗示によって伝統的な詩作に革命をもたらしました。彼は生涯をとおして偉大な詩作を続け、『エロディヤードの婚礼』と『賽の一振り』は断じて偶然を廃することはないだろう』は死後に出版されました。

マラルメはヴュレーヌ＝シュル＝セーヌの家を1874年に見つけ、家族と定期的に滞在するため数部屋を借りて、画家や詩人の友人達を招くために改装しました。そして、教職を退職した1893年以降はここに住みました。



県立ステファヌ・マラルメ博物館
Musée départemental Stéphane Mallarmé
4 promenade Stéphane-Mallarmé – 77870 Vulaines-sur-Seine
ヴュレーヌ＝シュル＝セーヌ、ステファン・マラルメ散歩道4番地
連絡先: +33 1 64 23 73 27 | musee-mallarme.fr | 
サイトで見学可能な日時をご確認ください。5月1日
12月24日～1月1日閉館、団体見学要予約。

ガイド付見学

-  高速 A6, Fontainebleau-Avon/Bois-le-Roi, フォンテーヌブロー＝アヴォン/ボワ＝ル＝ロワ出口
-  R線(リヨン駅発) Fontainebleau - Avon ou Vulaines-sur-Seine - Samoreau フォンテーヌブロー/アヴォン駅からヴュレーヌ＝シュル＝セーヌ/サモロー駅
-  アヴォン駅からバス4、5、6番Mallarmé ou Laffemasマラルメからフェマ下車



ジャン・モネの家

1945年に購入したバゾッシュ＝シュル＝グイヨンヌの家で、ロベール・シューマンと共に、モネは欧州共同体創設の最初の文章を作成しました。

ジャン・モネ JEAN MONNET は欧州共同体創設の父とされる人物です。コニャックの卸売り業を営む家庭に生まれ、初めは家族の会社で働きました。第一次世界大戦中、連合軍の資源調整の責任者に任命され、1919年に国際連盟のN^o.2になります。第二次世界大戦後すぐ、モネはフランスを整備し経済を刷新するための最初の復興計画を実施しました。



モネは平和のためにフランスとドイツの関係を深め、ヨーロッパ諸国の共同体というアイデアを進めました。1950年4月に彼はこの家で、最初の欧州石炭鉄鋼共同体を構想しました。1979年3月にバゾッシュで亡くなったモネの遺灰は1988年、パンテオンに移葬されました。



ジャン・モネの家 Maison Jean Monnet

7 chemin du Vieux-Pressoir
Houjarray - 78490 Bazoches-sur-Guyonne
バゾッシュ＝シュル＝グイヨンヌ、ウジャラー、
ヴュー＝プレソワール道7番地

連絡先: +33 1 34 86 12 43 | www.jean-monnet.fr |

ガイド付見学



年中無休 月曜～金曜10時～17時 土曜13時～18時 (10月15日～4月15日17時まで) 日曜10時～18時 (10月15日～4月15日17時まで)

団体のガイド付見学年中可能、要予約。



国道N12 Jouars-Pontchartrain ジュアール＝ボンシャルトラン出口
N線(モンパルナス駅発) Montfort-l'Amaury - Méréモンフォール＝
ラモリー/メレ駅



Saint-Quentin-en-Yvelinesサン＝カンタン＝アン＝イヴリンヌ発



メゾネット(ナディアとリリ・ブランジェの家)

メゾネットは、1937年に音楽用に設計された珍しい格天井のホールを備えています。作曲家のイーゴリ・ストラヴィンスキーは格別にこのホールが気に入っていました。

ナディアとリリ・ブランジェ NADIA, LILI BOULANGER は20世紀の音楽において重要な役割を果たした人物です。リリは20歳のとき、女性で初めてローマ賞作曲部門の第一等を受賞しましたが、1918年3月15日に年若くして亡くなりました。

ナディアは92歳で亡くなるまで、その長い生涯を主に教師として、音楽教育に捧げました。彼女の弟子には、指揮者のジョン・エリオット・ガーディナーや作曲家のミシェル・ルグランをはじめ、何世代にもわたる著名な音楽家があります。



メゾネット(「小さなおうち」の意味)は姉妹の母親が1908年に買った三家屋からなる館です。リリはここでほとんどの作品を作曲し、ナディアが第一次と第二次世界大戦の間の時期にここで行なった音楽教育は、国際的な名声を博しました。



メゾネット (ナディアとリリ・ブランジェの家)
Les Maisonnettes

2 place Lili-Boulanger - Hanneucourt - 78440 Gargenville
ガルジャンヴィル アンヌクール、リリ・ブランジェ広場2番

連絡先: +33 1 30 42 11 70

culture.a.gargenville@wanadoo.fr

文化イベントがあるとき入場自由、無料。見学要予約。



高速A13 Gargenvilleガルジャンヴィル(10番)出口



J線(サン＝ラザール駅発)

Gargenville via Conflans-Sainte-Honorine

ガルジャンヴィル駅(コンフラン＝サントノリーヌ経由)



レオン・ブルムの家

政府高官、作家、法学者のレオン・ブルム
LÉON BLUM は、フランス社会主義運動における主要な人物です。1936年の人民戦線政府の閣僚評議会議長を務め、重要

書斎と本棚は生前と同じ状態で保存され、レオン・ブルムの政治キャリアと文学作品が展示されています。

な社会政策の促進を主導しました。第二次世界大戦初期の1940年、対独協力したヴィシー政権によって逮捕され、リオン法廷は彼をドイツ軍に引き渡しました。

1943年3月にブルムは強制移送されますが、長年の友人ジャンヌ・レシェンバックは彼のもとに赴く許可を得ました。収容所から戻ったふたりは、ル・クロ＝デ＝メ

スのジャンヌの家に住みました。

1946年12月から1946年1月にかけて、ブルムは再び、フランス共和国臨時政府の国家首席を務めました。

1950年3月30日に亡くなり、国葬の後、ジュイ＝アン＝ジョザスの墓地に葬られました。



レオン・ブルムの家 Maison Léon Blum

4 rue Léon-Blum – 78350 Jouy-en-Josas

ジュイ＝アン＝ジョザス、レオン・ブルム通り4番地

連絡先: +33 1 30 70 68 46 | maisonleonblum@gmail.com

ガイド付見学

月～土曜 11時、14時、16時要予約。

5月～10月の日曜開館11時～17時



高速A86Jouy-en-Josasジュイ＝アン＝ジョザス出口

Jouy-en-Josasジュイ＝アン＝ジョザス駅

L線(サン＝ラザール駅発Chaville rive droite

シャヴィル・リーヴ・ドロワット駅

N線(モンパルナス駅発Chaville rive gauche

シャヴィル・リーヴ・ゴーシュ駅



モンテ・クリスト城

モンテ・クリスト城の中には、チュニジア人の職人がつくったムーア芸術様式の、美しい広間があります。



アレクサンドル・デュマ ALEXANDRE DUMASは、ロマン主義時代に最も多作で人気が高かった作家です。共同執筆者たちと共に、歴史劇の戯曲(『アンリ三世とその宮廷』、『アントニー』、『ネールの塔』)、

小説(『三銃士』、『二十年後』、『ブラジュロンヌ子爵』、『モンテ・クリスト伯(巖窟王)』、『王妃マルゴ』)など、三百作近くの作品を書きました。デュマは記者としても精力的に活動し、コラムを書くほか、いくつもの新聞を創刊して編集長も務めました。1844年に彼は、ル・ポール＝マルリーに家を建てる決心をして、二年後、英国式庭園の中に、ルネッサンス様式のお城が出現しました。ファサードには、著名作家の顔がメダイヨンの中に彫刻されています。



モンテ・クリスト城 Château de Monte-Cristo

78560 Le Port-Marly ル・ポール＝マルリー

連絡先: +33 1 39 16 49 49 | www.chateau-monte-cristo.com



4月1日～11月1日 火～金曜10時～12時30分 14時～18時

土・日曜 10時～18時

ガイド付見学

11月2日～3月31日 土・日曜 13時～17時

年末休暇時閉館。



高速A13 Saint-Germain-en-Layeサン＝ジェルマン＝アン＝レー
出口から国道N186



L線(サン＝ラザール駅発) Marly-le-Roiマルリ＝ル＝ロワ駅
バス10番Les Lampes レ・ランプ下車



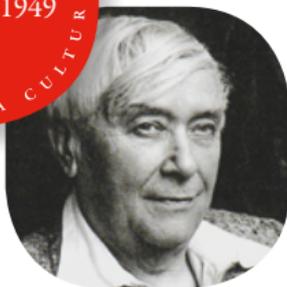
Saint-Germain-en-Layeサン＝ジェルマン＝アン＝レー駅
バス10番Les Lampes レ・ランプ下車





MAISONS DES ILLUSTRÉS
 モーリス・
 メーテルリンク
 1862-1949
 作家
 MINISTÈRE DE LA CULTURE

メダン城



モーリス・メーテルリンク
MAURICE MAETERLINCK
 はベルギー出身のフランス語を母語とする作家で、1911年にノーベル文学賞を受賞しました。数多くのエッセイと詩を書き、戯曲において象徴主

メダン城にはピエール・ド・ロンサールなどプレイヤード派の詩人も住み、アンリ四世は狩猟に訪れました。より最近では、ポール・セザンヌがこの城の絵を何枚か残しています。

義の主要な作家です。有名な作品に『青い鳥』や、ドビュッシー作曲のオペラ『ペレアスとメリザンド』があります。1924年、メーテルリンクは15世紀末に狩猟用の館として立てられたメダン城を購入しました。この城の2階の書斎で彼は、『白蟻の生活』、『ガラス蜘蛛』、『マリイ・ヴィクトワール』など、多くの作品を書きました。メーテルリンクは1939年6月、妻のルネと共にアメリカへ避難しました。戦後の1947年にフランスに戻りましたが、占領下に占拠され、略奪されたメダン城には住めませんでした。そこでニースの家に住み、彼は1949年にそこで亡くなりました。



メダン城 Château de Médan
 78670 Médan メダン



ガイド付見学

連絡先: +33 1 39 75 86 59 | www.chateau-de-medan.fr
chateamedan@gmail.com

見学は要予約。サイトで開館日を確認してください。



高速A13、A14 Poissy-Villennesポワシー＝ヴィレンヌ出口
 Villennes-sur-Seineヴィレンヌ＝シュル＝セーヌ方面
 次にMédanメダン方面



J線 (サン＝ラザール駅発)
 Villennes-sur-Seineヴィレンヌ＝シュル＝セーヌ駅





エミール・ゾラの家

作家・新聞記者のエミール・ゾラ ÉMILE ZOLA は、自然主義文学の代表的な存在でした。主要な作品は、第二帝政時代の家族の物語を描いた20巻に及ぶ金字塔『ルーゴン・マッカール叢書』です。ゾラの人生では共和主義へのアンガジュマンと正義のための闘いが注



目されます。1898年、ゾラは「オーロール」紙に『我弾劾す』を發表して大きな反響を巻き起こし、ドレフュス大尉の裁判(冤罪で有罪になった)の再審を促しました。ゾラは1878年の春、パリ近郊に家を購入し、自分の好みでジェルミナール塔とナナ塔を増築しました。そして、1902年に亡くなるまでの24年間、ここに住みました。死後の1905年、寡婦のアレクサンドリーヌはこの家を国の福祉機関に寄付しました。現在は家の改修を行い、隣の建物にドレフュス事件をテーマにした博物館設置を企画する「ゾラの家ードレフュス博物館」協会が持ち主になっています。



ゾラは1年の多くをメダンで過ごし、『ルーゴン・マッカール叢書』の12巻(『ジェルミナール』『獣人』『ボヌール・デ・ダム百貨店』など)をこの家で書きました。

エミール・ゾラの家 Maison d'Émile Zola

26 rue Pasteur – 78670 Médan

メダン、バスツール通り26番地

連絡先: +33 1 39 75 35 65 | www.maisonzola-museedreyfus.com

現在改修中、いつオープンするかサイトをご覧ください。



高速A13かA14 Poissy-Orgeval

ポワシー/オルジュヴァル出口から Villennes-sur-Seine-Médan
ヴィレーヌ=シュル=セーヌ/メダン方面



J線(サン=ラザール駅発)

Villennes-sur-Seine ヴィレーヌ=シュル=セーヌ/駅



モーリス・ラヴェルの家・博物館

「びっくり箱…船のキャビンのように区切られ、装飾された家。仕事に不可欠なもの、旅行セットのように貴重な物が詰まっている」
(レオン＝ポール・ファルグ)



作曲家のモーリス・ラヴェル MAURICE RAVELは20世紀初頭のフランス音楽に大きな影響を与えました。クロード・ドビュッシーと共に、その時代の「前衛の最先端」を代表しました。ラヴェルの作品は18世紀の音楽、ジャズ音楽の音色とリズム、スペイン音楽など、過去の遺産を複雑に消化したものです。モンフォール＝ラモリーで作曲されたものに、『ボレロ』、『左手のためのピアノ協奏曲』、『子どもと魔法』などがあります。

1921年にラヴェルは「ベルヴェデーレ」と呼ばれるこの家を購入しました。彼自身が室内を装飾し、変わった物品のコレクションを並べ、日本風の庭園を設計しました。1937年に亡くなるまでラヴェルはこの家に住みました。



モーリス・ラヴェルの家・博物館

Maison-musée Maurice Ravel

5 rue Maurice-Ravel - 78490 Montfort-l'Amaury

モンフォール＝ラモリー、モーリス・ラヴェル通り5番地

ガイド付見学

連絡先: +33 1 34 86 87 96 | www.ville-montfort-l-amaury.fr

ガイド付見学要予約 (6人以内) 土曜14時30分、15時30分

16時30分 日曜10時、11時、14時30分、15時30分、16時30分

火～金曜 予約により見学可。



N12 Montfort-l'Amaury-Méréモンフォール＝ラモリー/メレ出口
N線(モンパルナス駅発)Montfort-l'Amaury-Méré
モンフォール＝ラモリー/メレ駅



エルザ・トリオレとルイ・アラゴンの家 ムーラン・ド・ヴィルヌーヴ

6ヘクタールの庭園内の、歴史が詰まったこの家は今でも、ここに住んだ著名なカップルの望みを継承し、出会いと交流、現代美術展示の場所になっています。



エルザ・トリオレ ELSA TRIOLET はロシア出身のフランスの小説家です。彼女は1928年にパリのモンパルナスで詩人のルイ・アラゴン LOUIS ARAGON と出会い、フランス文学における最も有名なカップルのひとつになりました。エルザは1944年に『最初のほころびは200フランかかる』でゴンクール賞を受賞しました。アラゴンも小説家(『パリの農夫』、『オーレリアン』など)、シュルレアリスムの詩人として有名です。1942年に彼は『エルザの瞳』という詩集を発刊しました。カップルは第二次世界大戦中にレジスタンス活動を行い、共産党に近い作家として「全国作家委員会」創立に関わりました。ムーラン・ド・ヴィルヌーヴはエルザの「フランスの小さな土地だ」とアラゴンが決めて、暮らした場所です。2人は1951年～1970年ここに住み、庭園のまん中に一緒に葬られました。



ガイド付見学

エルザ・トリオレとルイ・アラゴンの家 ムーラン・ド・ヴィルヌーヴ

Maison Elsa Triolet - Louis Aragon Moulin de Villeneuve

Rue de Villeneuve - 78730 Saint-Arnoult-en-Yvelines

サンタルヌー＝アン＝イヴリーヌ、ヴィルヌーヴ通り

連絡先: +33 1 30 41 20 15

www.maison-triolet-aragon.com |

庭園と展覧会の見学2月～11月毎日14時～18時



高速A10かA11 Saint-Arnoult - Dourdan - Rambouillet

サンタルヌー/ドゥルダン/ランブイエ出口



N線 (モンパルナス駅発) Rambouillet

ランブイエ駅からバスかタクシー



Dourdanドゥルダン駅からバスかタクシー



クロード・ドビュッシーの生家

1884年に作曲でローマ大賞第一等を受賞したクロード・ドビュッシー **CLAUDE DEBUSSY**は、革新的な作曲で時代に大きな影響を与えました。『牧神の午後へ

この家は、王室建築家ピエール・ル・ミュレ[1591-1669]の典型的な設計に基づいています。中庭を隔てた二棟は、美しい木の階段で結ばれています。

の前奏曲』、『ベルガマスク組曲』、交響詩『海』などの作品はモーリス・ラヴェルの作品と共に、20世紀の音楽の変革に決定的な役割を果たしました。

1862年8月22日にサン＝ジェルマン＝アン＝レーに生まれた彼は、陶器の店を営んでいた両親の家、オ・パン通り38番地のこの家で2歳まで過ごしました。今日、市によって博物館に整備された家では家族の思い出の品々、ドビュッシーの芸術的な好みを表し、インスピレーションの源になった私物が展示されています。



クロード・ドビュッシーの生家 Maison natale de Claude Debussy

38 rue au Pain – 78100 Saint-Germain-en-Laye
サン＝ジェルマン＝アン＝レー、オ・パン通り38番地

連絡先: +33 1 30 87 20 63 | www.saintgermainenlaye.fr

年中無休 水曜～土曜14時～18時(日により15時～19時)、
夏期は週末のみ開館、祝日閉館。

音楽シーズンの催し。グループのガイド付見学年中無休、
要予約。



高速A14、A13、国道N13、N184 Saint-Germain-en-Laye
サン＝ジェルマン＝アン＝レー出口

Saint-Germain-en-Layeサン＝ジェルマン＝アン＝レー駅
259



モーリス・ドニ県立美術館

モーリス・ドニは晩年の30年間で、17世紀末に王立総合病院だったこの美しい建物で暮らしました。彼はここをル・プリウレ(小修道院)と名づけました。

ナビ派の主要メンバーであるモーリス・ドニ MAURICE DENIS は、多分野で才能を発揮した多作な芸術家です。画家であると同時に理論家でもあり、装飾美術、ステンドグラス、版画、挿絵も創作しました。また、1919年の宗教美術アトリエの創立にも参加しました。



シャンゼリゼ劇場装飾の注文を受けたドニは1912年、生涯を過ごしたサン＝ジェルマン＝アン＝レーの地所に、その制作のために大きなアトリエを建てさせます。1914年にはその地所を購入し、主要な建物を家族の居住地に改装しました。建築家オーギュスト・ペレの助けをかりて、ドニは古い礼拝堂を改修し、全体を壁画とステンドグラスで装飾しました。大木の植えられた庭園は、美術館で作品を鑑賞した後、自然に瞑想が深まるような趣です。



モーリス・ドニ県立美術館 Musée départemental Maurice Denis
2 bis, rue Maurice Denis – 78100 Saint-Germain-en-Laye
サン＝ジェルマン＝アン＝レー、モーリス・ドニ通り2の2
連絡先: +33 1 39 07 87 87 | www.musee-mauricedenis.fr
年中無休(1月1日、5月1日、12月25日閉館)水曜～日曜10時～12時30分、
14時～17時30分(週末と祝日は18時30分まで)

ガイド付見学



高速A13国道N190、N13、N186 障害者用の駐車場可能



Saint-Germain-en-Layeサン＝ジェルマン＝アン＝レー
駅から徒歩10分



(RER 駅と市庁舎横から)R1(Lycée Léonard de Vinciリセ・レオナルド・
ダヴィンチ方面)かR2Sud(南回り)で Diderotディドロ下車





レーモン・ドウヴォスの家・博物館

喜劇俳優のレーモン・ドウヴォス RAYMOND DEVOSは、言葉と音の遊びの名人です。不条理の論理を駆使し、ユーモアを気品のある芸術に高めました。1963年、妻のシモーヌと共にヴィラ・イエラに住みつき、以後ずっとここで暮らしました。パリの喧噪から離れた家と庭園が、ユーモア作家ドウヴォスの創造の世界となったのです。彼はここで寸劇を書き、稽古しました。興行の合間にはここで休息し、友人たちを招待しました。ドウヴォスの芸術を後世に残すためにできたレーモン・ドウヴォス財団は、2016年11月7日、創造的でおどけたドウヴォスのエスプリを伝える博物館を、この家の中にオープンしました。

「あるレセプションの際、私はこの素晴らしい場所を発見した。高みに家があり、下には庭を横切る川と池がある。それが我が家だったら神様とか、誰か他の人でもいいが感謝したくなる。」
(レーモン・ドウヴォス)



ガイド付見学

レーモン・ドウヴォスの家・博物館 Maison-musée Raymond Devos

10 rue de Paris – 78470 Saint-Rémy-lès-Chevreuse

サン＝レミ＝レ＝シュヴルーズ、パリ通り10番地

連絡先: +33 1 30 47 76 71 | www.raymond-devos.org | 

年中無休 水曜～日曜と祝日 4月～10月14時～19時、
11月～3月18時まで)



国道N118 Saclayサクレー出口から県道 D906

Saint-Rémy-lès-Chevreuseサン＝レミ＝レ＝シュヴルーズ駅



ヴォー＝シュル＝セーヌ城

イタリアのピエモンテ地方(当時フランス領)出身の**カルロ・マロケッティ CARLO MAROCHETTI**は、イタリア、フランス、英国とヨーロッパ規模で公的な仕事をした宮廷彫刻家です。凱旋門の

城と素晴らしい展望の庭園には、この場所を自分の好みに合わせた彫刻家マロケッティ(父と息子)の個性が表れています

浅浮き彫り(ジェマップの戦い)やマドレーヌ教会の中央祭壇など、数多くのモニュメントを担当しました。

父親のヴィンチェンツォは1819年にこの城の持ち主になりました。カルロと彼の息子、同じく彫刻家の息子マウリッツィオは、ここに住んで仕事をしました。15世紀に立てられたこの城には、さまざまな国の芸術家と作家が訪れました。19世紀の嗜好の歴史が表されています。



ヴォー＝シュル＝セーヌ城 Château de Vaux-sur-Seine

1 chemin du château - 78740 Vaux-sur-Seine

ヴォー＝シュル＝セーヌ、シャトー通り1番地

連絡先: contact@chateaudevauxsurseine.fr

ガイド付見学

ガイド付見学は要予約(15人以上のグループのみ)



高速A13、Les Mureauxレ・ミュロー出口



J線(サン＝ラザール駅発)Vaux-sur-Seine
ヴォー＝シュル＝セーヌ駅



3, 7, 27, 30, 311, 313番

「この家は私が来るのを待っていた。パレ・ロワイヤルの無駄話から遠く離れた、隠れ家のように。家は私に、不条理で素晴らしい植物の頑固さを、手本として示す。古来の田舎の思い出を見出せるのだ(…)

(ジャン・コクトー)

ジャン・コクトーの家

ジャン・コクトー JEAN COCTEAU は多分野で才能を發揮しました。バレエ・リュスを創設したセルゲイ・ディアギレフとの出会いが、彼の芸術的行路を激変させました。詩、演劇、評論だけでなく、グラフィックデザインや映画も手がけ、1946年に監督した映画『美女と野獣』でルイ・ドゥリュック賞を受賞。戯曲『アンティゴネ』や『地獄の機械』が示すように、作品は古代の神話に深く影響を受けています。

ジャン・コクトーとジャン・マレーは1947年に、ミイイー＝ラ＝フォレの代官の家を購入しました。この家でコクトーは詩集『鎮魂歌』を書き、映画『オルフェの遺言』を構想しました。1955年にアカデミー・フランセーズの会員になったコクトーは、1963年に亡くなるまでこの家に住みました。遺体は、1959年に自ら壁画を描いたサン＝ブレイズ＝デ＝サンプル礼拝堂に埋葬されました。



ガイド付見学

ジャン・コクトーの家 Maison Jean Cocteau

15 rue du Lau - 91490 Milly-la-Forêt

ミイイー＝ラ＝フォレ、ロー通り5番地

連絡先: +33 1 64 98 11 50 | www.maisoncocteau.net

3月初め～10月: 水曜～日曜14時～19時、

11月～12月半ば: 水曜～日曜14時～18時

年中グループのガイド付見学、要予約。



高速A6 13番出口



Maiseメッス駅 (Millyミイイーから6km)からタクシー





フジタの家・アトリエ

フランスに帰化した藤田嗣治ことレオナルド・フジタ **LÉONARD FOUJITA** は絵画だけでなくデッサン、版画、イラスト、陶芸、写真など多分野で才能を発揮した芸術家です。

家とアトリエには芸術家の内面の世界が表されています。とりわけ、ランスのノートルダム＝ド＝ラ＝ベ礼拝堂の装飾を準備した大きな壁画があります。

1922年のサロン・ドートンヌ展に出品した『寝室の裸婦キキ』(当時の画家たちのアイドルだったモンパルナスのキキを描いた)で、大きな名声を得ました。南アメリカからアメリカ合衆国、さらに日本に拠点を移した後、1950年代に再びフランスに戻りました。

1960年にフジタはシュヴルーズの谷間にあるこの小さな家を購入し、住居とアトリエに改修します。職人芸とデザインに魅せられていた彼は、家の隅々のディテールにいたるまで自分で手を加え、晩年の8年間をここで妻と共に過ごしました。



フジタの家・アトリエ Maison-atelier Foujita

7-9 route de Gif - 91190 Villiers-le-Bâcle

ヴィリエール＝バークル、ジフ街道7-9番地

連絡先: +33 1 69 85 34 65 | www.essonne.fr

年中無休 土・日曜14時～18時30分、週日は予約要

ガイド付見学のみ



要予約



ガイド付見学



国道N118から県道D36

高速A6 A10から県道D36Versaillesヴェルサイユ方面



Massy-Palaiseauマッシー＝パレゾー駅から

バス91-06 A、B、91-10



カイユボットの家



見事な「建造物」の数々に彩られた敷地の庭園は、当時の面影を残し、散歩しながら絵画に描かれた風景に出会えます。イエールが印象派の代表的な場所の一つに数えられるゆえんです。

ギュスターヴ・カイユボット GUSTAVE CAILLEBOTTE は印象派の画家で蒐集家、そしてルノワール、モネ、セザンヌなどのメセナ(芸術庇護者)でした。裕福な実業家の父親は1860年、イエールにこの敷地を購入しました。カイユボットはここに家族と定期的に滞在し、イギリス式庭園や水辺の遊び、避暑・静養に訪れた家族や友人達などをテーマにした絵画を描きました。

1875年作の『床削りの人々』は、都市のプロレタリアを描いた最初の表象のひとつです。後に彼は、新奇な画面構成でパリの大通りや郊外の風景を描き、蒐集した主な作品を寄贈した後、45歳で亡くなりました。

ル・カザンと呼ばれるカイユボットの家では、彼の時代の家具で当時のように装飾された部屋や広間をとおして、家族とこの場所の歴史を知ることができます。



カイユボットの家 Maison Caillebotte

8 rue de Concy - 91330 Yerres イエール、コンシー通り8番地

連絡先: +33 1 80 37 20 61

www.proprietecaillebotte.com |

4月~10月:火曜~日曜、祝日14時~18時30分

11月~3月:土・日曜と祝日14時~18時30分

庭園年中無休でオープン 9時~18時30分
(季節により21時まで)



ガイド付見学

団体のガイド付見学は要予約。



高速A4 Melun/Sénart ムラン/セナール方面

A86 Créteilクレティユ方面から国道N19 Yerresイエール方面



Yerresイエール駅からバスF線



ポール・マルモッタン図書館

19世紀末に建造されたこの図書館は、第一帝政とナポレオンに対するポール・マルモッタンの情熱の賜物です。

ポール・マルモッタン **PAUL MARMOTTAN** は作家、歴史学者、蒐集家です。その研究と学識によってナポレオン時代のヨーロッパの専門家となり、第三共和政時代における第一帝政・新古典様式嗜好の復活に貢献しました。自ら建てさせ装飾したマルモッタンの邸宅は、1932年に芸術アカデミーに遺贈されました。書斎の内装は当時のままに残されています。



図書室には、自分の家を研究の場と美術館・ギャラリーにしようとしたマルモッタンの意志が表れています。今日、そこには30000冊の書籍と数千の版画が保管されています。



ポール・マルモッタン図書館 **Bibliothèque Paul Marmottan**
7 place Denfert-Rochereau - 92100 Boulogne-Billancourt
ブーローニュ=ピアンクール、ダンフェール=ロシュロー広場7番地

連絡先: +33 1 55 18 57 61

bibliothequemarmottan@mairie-boulogne-billancourt.fr

図書館閲覧室 水曜14時~18時 木・金曜11時~18時

土曜14時~17時

企画展 火曜~土曜10時~13時 14時~17時30分

古い部屋見学は要予約

ガイド付見学 第1火曜15時

ガイド付見学



Boulogne Jean Jaurès ブーローニュ/ジャン・ジョレス駅 (10号線)

N°52 Denfert-Rochereauダンフェール=ロシュロー下車

N°571 SUBB boucle Nord北回り

Denfert-Rochereauダンフェール=ロシュロー下車





シャトーブリアンの家 ラ・ヴァレ＝オ＝ルー

文学者・外交官・政治家のフランソワールネ・ド・シャトーブリアン **FRANÇOIS-RENÉ DE CHATEAUBRIAND** はロマン主義文学の先駆

シャトーブリアン自身が家を装飾し、庭園は植物学と文学の作品のように設計し、造園しました。訪問者をロマン主義のさなかへの静かな旅へと導きます。

者です。1807年、ナポレオン一世を辛辣に批判した記事を書いたあと、パリから少し離れることにより、彼はパリの南郊外、オルネー村の近くのラ・ヴァレ＝オ＝ルーに家を購入しました。10年ほど暮らしたこの家で、シャトーブリアンは『殉教者』『パリからエルサレムへ』『アベンセラフェス最後の冒険』を書き、『墓の彼方からの回想』を書き始めます。旅で訪れたアメリカと地中海諸国を思い起こす、文学者ならではの庭園を作りました。



シャトーブリアンの家 ラ・ヴァレ＝オ＝ルー
Maison de Chateaubriand - La Vallée-aux-Loups
87 rue de Chateaubriand - 92290 Châtenay-Malabry
シャトネー＝マラブリー、シャトーブリアン通り87番地

連絡先: +33 1 55 52 13 00

www.vallee-aux-loups.hauts-de-seine.fr | 

火曜～日曜 3月～10月:10時～12時、13時～18時
11月～2月:10時～12時、13時～17時
1月1日～15日、12月25日閉館

ガイド付見学



高速A86 Châtenay-Malabryシャトネー＝マラブリー (29番) 出口
Robinson口バンソン駅
N°194, 294, bus Paladin 11 ビュス・パラダン11





ロダンの館 ヴィラ・デ・ブリアン

オーギュスト・ロダン AUGUSTE RODIN は、彫刻の普遍的な天才のひとりです。『接吻』、『バルザック像』、『カレーの市民』、『地獄の門』など最も有名な作品には、彼の芸術のモダン性と自由奔放さが表されています。ロダンは1895年12月19日に、ムードンのヴィラ・デ・ブリアンを競売で購入しました。ルイ十三世様式の石とレンガづくりのこの館は以後、ロダンの生活と創作の主要な場となります。生前に彼はすべての作品とアトリエの地所を国家に遺贈していたため、1917年11月17日にロダンの亡くなると、この館は国家のものになりました。そして、ロダンの素描と粗彫りを展示する美術館にします。ヴィラにはロダンの伴侶のローズ・ブーレの墓があり、お参りに訪れる人もいます。



「広々とした明るい広間に入ると、強烈な印象を受ける。たくさんのおまじゆいばかりの白い彫刻が、高いガラス戸の向こうからこちらを見ている。水族館の魚が見学者を見るように。おそろしく強烈な印象だ。」

(ライナー・マリア・リルケ)



ロダンの館 ヴィラ・デ・ブリアン Villa des Brillants

19 avenue Auguste-Rodin – 92190 Meudon

ムードン、オーギュスト・ロダン大通り19番地

連絡先: +33 1 41 14 35 00 | www.musee-rodin.fr | 

年中無休 金曜～日曜13時～18時

ガイド付見学要予約 金曜～日曜13時～16時30分

ガイド付見学



Mairie d'Issyメリー・ディシー (12号線)

からバスn°s 169, 190, 290 Hôpital Percy オピタル・ペルシー下車



Meudon/Val-Fleuryムードン/ヴァル＝フルリー駅から

バス169番Paul Bert ポール・ペールで下車



この敷地に住んだ最初の著名人は、オノレ・ド・パルザックです。(1838年)家の横に1891年、国家はレオン・ガンベッタを讃えるモニュメントを彫刻家パルトルディ(「自由の女神」の作家)に作らせました。

レオン・ガンベッタの家 メゾン・デ・ジャルディ

弁護士・政治家のレオン・ガンベッタ **LÉON GAMBETTA** は第三共和政の父とされる人物です。有名な「ベルヴイル政策綱領」によって、1860年代末から既にナポレオン三世の第二帝政に対する対抗勢力として頭角を現しました。以後、めざましい政治キャリアを歩み、重要な職務を担います。1869年に国民議会の議員に選出され、1879年はその議長を務め、1881年には第三共和国の首相になりました。1870年に内務大臣と戦争大臣、1881年に外務大臣と、大臣も三度務めます。



このメゾン・デ・ジャルディには1882年、伴侶と共に住みつきました。その年の12月31日、44歳のガンベッタはここで亡くなりました。



レオン・ガンベッタの家 メゾン・デ・ジャルディ
Maison des Jardies 14 avenue Gambetta – 92310 Sèvres
セーヴル、ガンベッタ大通り14番地

連絡先: +33 1 45 34 61 22 | www.maison-des-jardies.fr

年中無休 木・金曜14時30分、16時、17時

週末は原則的に隔週開館(サイトでおたしかめください)

ガイド付見学のみ。



ガイド付見学



国道N10 Versaillesヴェルサイユ方面



パリからL線(モンパルナス駅発)ヴェルサイユからU線
Gare de Sèvres-Ville d'Avrayセーヴル駅/ヴィルダヴレー駅

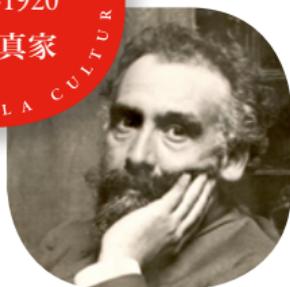


バスN°426 Gare de Sèvres - Ville d'Avray
セーヴル駅/ヴィルダヴレー駅





エミリオ・ボッジオの家・アトリエ



画家・写真家のエミリオ・ボッジオ **ÉMILE BOGGIO** のオーヴェル＝シュル＝オワーズの墓は、ゴッホ（フィンセントと弟テオ）の墓と同様、蔦で覆われています。1857年にベネズエラのカラカスで生まれた彼は、アカデミー・ジュリアンでジャン＝

「彼は一流の芸術家だ。妙技と自由さ、そして偉大なピサロに似た、デリケートなビジョンで風景に「染みをつける」が、同時に彼特有の個性を保っている。」

（パスカル・フォルチュニ）

ポール・ローランスに習い、象徴主義の絵画を描きました。1900年のパリ万博で『労働』が2等賞を獲得し、その頃から印象派の影響を受けます。1919年にカラカスで生前最後の個展が開かれ、ベネズエラの絵画に大きな影響を与えました。ボッジオの作品を集めた美術館が1973年、カラカスにできました。

友人画家アンリ・マルタンと3年間イタリアに旅した後、彼は1910年にオーヴェル＝シュル＝オワーズに住みつきます。農家を家とアトリエに改装し、400以上の作品を描いたボッジオは1920年6月7日、63歳で亡くなりました。花が咲いた林檎の木を描いた最後の絵は、今もアトリエのイーゼルの上に置かれています。

エミール・ボッジオの家とアトリエ Maison-Atelier Emile Boggio

47 rue Émile Boggio - 95430 Auvers-sur-Oise

オーヴェル＝シュル＝オワーズ、エミール・ボッジオ通り47番地

連絡先: lesateliersboggio@sfr.fr

4月～10月末の土・日曜14時～18時30分

団体見学要予約

ガイド付見学



高速A86 Gennevilliers Cergy-Pontoiseジュヌヴィリエ/セルジー＝ポントワーズ方面からA15 Cergy-Pontoiseセルジー＝ポントワーズ方面、次にA115 Calaisカレー方面から国道N184でMéry-sur-Oiseメリ＝シュル＝オワーズ方面



Pontoiseポントワーズ方面Saint-Ouen-l'Aumôneサントワン＝ロモヌ駅下車次に国鉄Creilクレイユ方面Auvers-sur-Oise オーヴェル＝シュル＝オワーズ駅下車

「オーヴェールに豆畑に覆われた30パーチ平方の土地を買った。もし私を訪ねてきてくれるなら、羊の腿肉もいくつか用意しよう。そこに8m×6mのアトリエと、まわりに何部屋かを建てさせているところだ。」

(ドービニー)

ドービニーの家・アトリエ

画家・版画家のシャルル＝フランソワ・ドービニー CHARLES FRANÇOIS DAUBIGNYは、印象派の先駆者のひとりです。初めはバルビゾンに滞在しました。戸外で描くドービニーは、インスピレーションの源である風景の中に身を置くために、自分の船「ボタン」をセヌ川とオワーズ川に浮かぶ動くアトリエに改装します。遠出を続けるうちにオーヴェール＝シュル＝オワーズを見つけ、そこに土地を購入し、1861年に家とアトリエを建てました。それがこの町で最初の、芸術家が集まる場所となります。



家のさまざまな部屋の壁はドービニーと彼の子どもカールとセシル、ドービニーの親しい友人たちジャン＝バティスト・カミーユ・コローやオノレ・ドーミエによって装飾されました。ドービニーは新しい様式の絵画を描く芸術家たちを支援し、クロード・モネ、カミーユ・ピサロ、ポール・セザンヌなどがこの家の常連になりました。



ドービニーの家・アトリエ Maison-atelier de Daubigny

61 rue Daubigny – 95430 Auvers-sur-Oise

オーヴェール＝シュル＝オワーズ、ドービニー通り61番地

連絡先: +33 1 34 48 03 03 | www.atelier-daubigny.com

3月末～10月末 開館時間帯はサイトをご覧ください。

ガイド付と団体見学は要予約(reservation@atelier-daubigny.com)



ガイド付見学



高速A86 Gennevilliers Cergy-Pontoiseジュヌヴィリエ/セルジー＝ポントワーズ方面からA15 Cergy-Pontoiseセルジー＝ポントワーズ方面、次にA115 Calaisカレー方面から国道N184でMéry-sur-Oiseメリ＝シュル＝オワーズ方面



Pontoiseポントワーズ方面Saint-Ouen-l'Aumôneサントワン＝ロモヌ駅下車次に国鉄Creilクレイユ方面Auvers-sur-Oise オーヴェール＝シュル＝オワーズ駅下車



医師ガシエの家

「彼はいつも、多方面の並外れた活動に、正面から取り組んでいた。診察と絵画、同毒療法と逆症療法、文学と釣り、そして子どもの教育も…」

(ポール・アレックス)

医者で版画家、蒐集家のポール・フェルディナン・ガシエ PAUL FERDINAND GACHETは、数多くのアーティストと交流がありました。エドゥアール・マネ、ポール・セザンヌ、カミーユ・ピサロ、そしてフィンセント・ファン・ゴッホは彼の家や庭を訪れました。精神病を専門とし、当時の発見に関心をもっていたガシエ医師は、医学と芸術の混じり合った生涯を送りました。ポール・ヴァン・リセルという名で版画を制作していた彼は、屋根裏のアトリエでセザンヌとゴッホにエ



ッチングの技術を教えました。ガシエ医師が1872年に購入したこの家は、画家たちのたまり場であり、かつインスピレーションの源となりました。セザンヌとゴッホの数点の絵には、風景の中にこの家が目印のように描かれています。ガシエ医師の子どもたちは、膨大な芸術品コレクションのうちタブローを国家に寄贈したため、今ではそれらをオルセー美術館で鑑賞できます。



医師ガシエの家 Maison du Dr. Gachet

78 rue Gachet – 95430 Auvers-sur-Oise

オーヴェル＝シュル＝オワーズ、ガシエ通り78番地

連絡先: +33 1.30.36.81.27 | maison.gachet@valdoise.fr

3月末～10月末開館 水～日曜 10時30分～18時30分



高速A86 Gennevilliers Cergy-Pontoiseジュヌヴィリエ/セルジー＝ポントワーズ方面からA15 Cergy-Pontoiseセルジー＝ポントワーズ方面、次にA115 Calaisカレー方面から国道N184でMéry-sur-Oiseメリ＝シュル＝オワーズ方面



Pontoiseポントワーズ方面Saint-Ouen-l'Aumôneサントワン＝ロモヌ駅下車次に国鉄Creilクレイユ方面Auvers-sur-Oise オーヴェル＝シュル＝オワーズ駅下車





ジャン=ジャック・ルソー博物館

ジュネーヴに生まれた作家・哲学者のジャン=ジャック・ルソー JEAN-JACQUES ROUSSEAU は、1750年の『学問芸術論』と1755年の『人間不平等起源論』で名声を得

ルソーの主要な作品がこの家で書かれました：『ダランベルへの手紙』『新エロイズ』『エミール』『マルゼルブ租税法院院長への四通の手紙』『社会契約論』。

ました。これらの論文でルソーは、自分の哲学の主要テーマを展開します。人間は生まれながらは善人だが、社会との接触によって墮落するというものです。公民権の創立原理を分析した主要な作品『社会契約論』は「人間と市民の権利の宣言」にインスピレーションを与え、フランス革命の精神に深い影響をもたらしました。ルソーが1757年から1762年まで住んだモンモランシーの家には、彼の文学・哲学創作において非常に豊かで安定した時期の思い出が保存されています。



ジャン=ジャック・ルソー博物館
Musée Jean-Jacques Rousseau



5 rue Jean-Jacques-Rousseau – 95160 Montmorency
モンモランシー、ジャン=ジャック・ルソー通り5番地



連絡先： +33 1 39 64 80 13



<http://museejjrousseau.montmorency.fr> | 

ガイド付見学

14時～18時開館：4月～10月 火曜～日曜、11月～3月 火曜～土曜



高速A1 Saint-Denisサン=ドニ(3番)出口から国道N1次に
県道 D125 Montmorency モンモランシー方面



H線(北駅発) Enghien-les-Bains アンギャン=レ=バン
駅からバスN°15 Hôtel de ville オテル・ド・ヴィル下車、
N°13 Rey de Foresta レ・ド・フォレスタ下車



写真のクレジット

PHOTOGRAPHIES DES SITES

© Colombe Clier-MCC sauf :

- page 9 : © 2015 Musée du Louvre - Antoine Mongodin
- page 22 : © château Monte-Cristo - Frédérique Lurol
- page 28 : © Musée départemental Maurice Denis
- page 29 : © Micheline Pelletier / Corbis
- page 33 : © Sébastien Erras - La chambre à coucher Biennais de la Maison Caillebotte
- page 38 : © Xavier Boggio
- page 40 : © Michel Jourdheuil – CD95

PORTRAITS DES HOMMES ET FEMMES ILLUSTRÉS

- Page 4 : © Maisons de Victor Hugo / Roger-Viollet
- Page 6 : © Colombe Clier-MCC
d'après le portrait de Charles Franque, copie par Tony Robert-Fleury
- Page 7 : © Musée Curie
- Page 8 : © Maison d'Auguste Comte d'après le portrait de J.Léonard, 1860,
d'après la lithographie de J.H Hoffmeister
- Page 9 : © Louvre/RMN, Mathieu Rabot, Hippolyte Gaultron, d'après Eugène Delacroix,
Autoportrait, huile sur toile, vers 1845
- Page 10 : © RMN / René-Gabriel Ojéda
- Page 11 : © Institut Pasteur / Musée Pasteur,
d'après une photographie de Nadar de 1889
- Page 12 : © Maison de Balzac / Roger-Viollet,
d'après le daguerréotype original de Louis-Auguste Bisson
- Page 13 : © Paris, coll. Musée Clemenceau / Henri Manuel
- Page 14 : © FLC/ADAGP
- Page 15 : © Musée Louis Braille – Maison natale Louis Braille,
d'après le portrait de Lucienne Filipi, non daté
- Page 16 : © Commune de Saint Cyr-sur-Morin, dépôt du comité des Amis
de Pierre Mac Orlan au musée départemental de la Seine-et-Marne
- Page 17 : © Musée Rosa Bonheur / Nicolas Sorrel-Déjerine
d'après le portrait d'Anna Klumpke, 1899
- Page 18 : © Y. Bourhis DAPMD / CG77
- Page 19 : © UE/Christian Lambiotte, vers 1968
- Page 20 : © Centre international Nadia et Lili Boulanger
d'après les photographies d'Henri Manuel, 1913, pour Lili Boulanger
et d'Otto Hess, 1939, pour Nadia Boulanger
- Page 21 : © Maison Léon Blum
- Page 22 : © Château Monte-Cristo
- Page 23 : © Château de Medan
- Page 24 : © Maison Zola – Musée Dreyfus,
d'après le portrait d'Henri Le Lieure, 1894.
- Page 25 : © Don Manuel Rosenthal – ville de Montfort l'Amaury
- Page 26 : © Pablo Volta
- Page 27 : © Colombe Clier-MCC,
d'après *Portrait de Claude Debussy*, Théophile-Alexandre Steinlen, 1908.
Maison natale Claude-Debussy, Saint-Germain-en-Laye.
- Page 28 : © Archives du Catalogue raisonné Maurice Denis, portrait de Maurice Denis
- page 29 : © Micheline Pelletier / Corbis
- Page 30 : © Colombe Clier-MCC d'après la photographie de John Watkins, vers 1860
- Page 31 : © P. Boucher / Maison Jean Cocteau à Milly-la-forêt
- Page 32 : © CD91 Laurence Godart, Fondation Foujita – ADAGP 2018
- Page 33 : © Comité Caillebotte, Paris,
d'après *Autoportrait au chapeau d'été*, Gustave Caillebotte, 1873
- Page 34 : © Colombe Clier-MCC.
Elie Nonclerc (1847-1920), *Portrait de Paul Marmottan*, 1898, inv.1970.56
- Page 35 : © CD92 Willy Labre, Anne-Louis Girodet-Trioson,
Portrait de Chateaubriand (modello), 1809
- Page 36 : © Musée Rodin, d'après la photographie de Georges Charles Beresford, 1902
- Page 37 : © Colombe Clier-MCC d'après le portrait de Lavidière, 1878
- Page 38 : © Armelle Maugin CD 95 - Portrait d'Emile Boggio vers 1902
- Page 39 : © Colombe Clier-MCC d'après le portrait de Léopold Masson ,1879
- Page 40 : © RMNGP Jacques Quecq d'Henripret
d'après *Le portrait du Docteur Paul Gachet*, Armand Gautier,1860,
Palais des Beaux-Arts de Lille
- Page 41 : © Delage - Musée JJ Rousseau – Montmorency
d'après *Jean-Jacques Rousseau, citoyen de Genève*,
Maurice-Quentin de La Tour, vers 1764

イル＝ド＝フランス地域圏文化事業局

イル＝ド＝フランス地域圏文化事業局 局長

Nicole da Costa

同局美術館・博物館部門

Sylvie Müller

Laurence Isnard

Pauline Tiberghien-Lucet

Véronique Bourbiaux

Frédérique Jean-Revil (研修生)

協力

フランス文化財局

Vincent Berjot

同局の公衆政策部

Emmanuelle Lallement

Marco Marchetti

外国語への翻訳

Cathy Demanoff (英語)

Margarida Llabrés-Rotger (スペイン語)

Su Shanna (中国語)

グラフィックデザイン

HITE DESIGN GRAPHIQUE | Thierry Badin

印刷

ARLYS CRÉATION

12 rue Eiffel

95 180 Goussainville

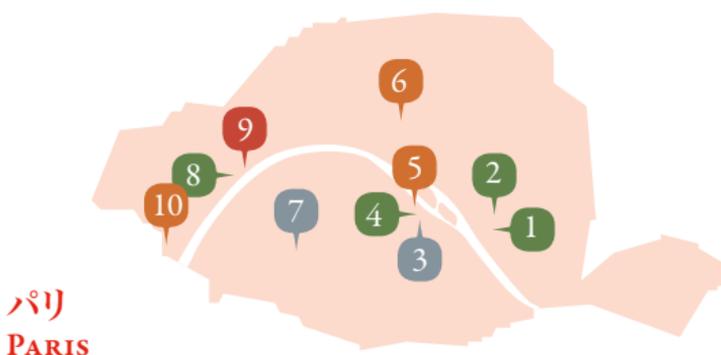
謝辞

美術館・博物館部門は、
このガイド企画に参加した研修生
Enora Guérif, Maxime Bugeaud
et Maxime Blin
に感謝いたします。

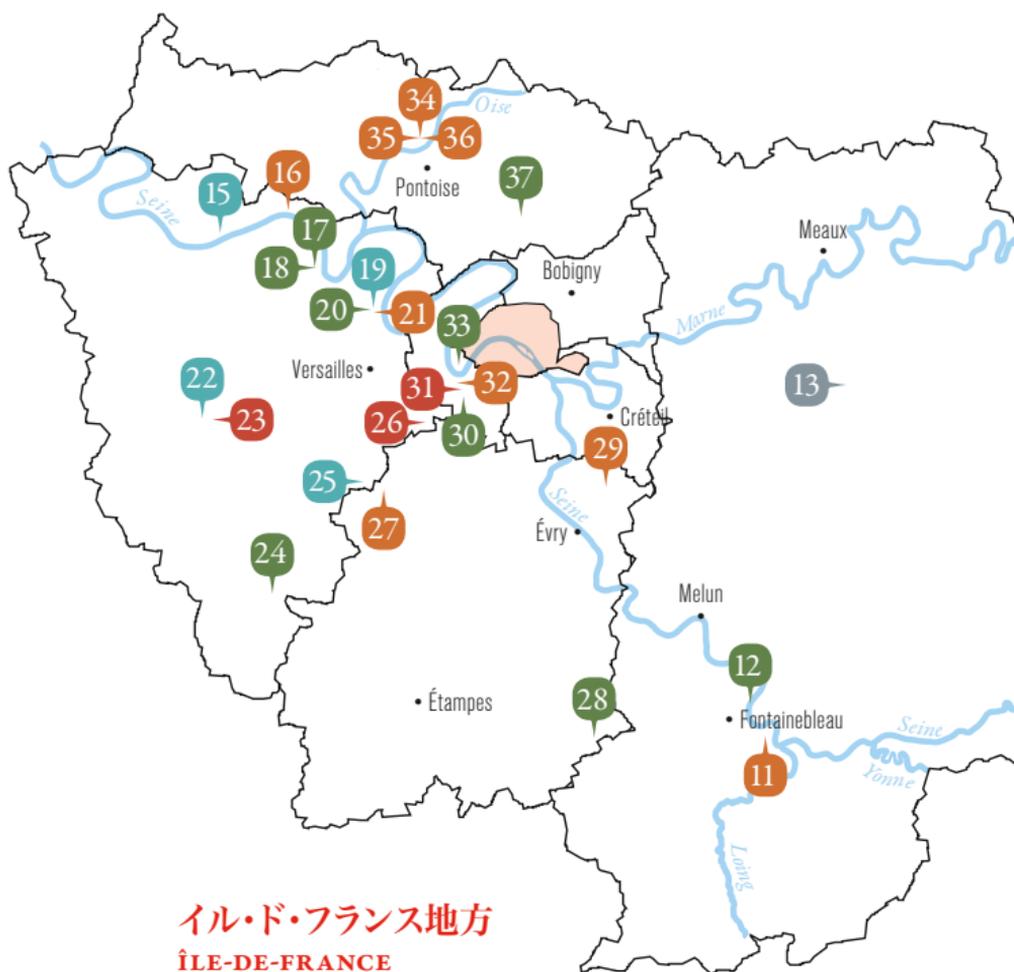
著名人ゆかりの家

- イル・ド・フランス地方 -

- 造形芸術・建築
- 歴史・政治
- 音楽・演劇・映画
- 文学・思想
- 科学・技術

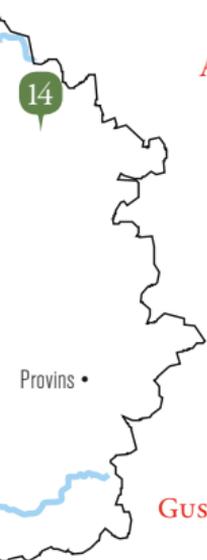


パリ
PARIS



イル・ド・フランス地方
ÎLE-DE-FRANCE

	PARIS	パリ
	CHARLES NODIER	1 シャルル・ノディエ p.6
	VICTOR HUGO	2 ヴィクトル・ユーゴー p.4
	MARIE CURIE, IRÈNE ET FRÉDÉRIC JOLIOT-CURIE	3 マリ・キュリー、イレーヌとフレデリック・ ジョリオ＝キュリー p.7
	AUGUSTE COMTE	4 オーギュスト・コント p.8
	EUGÈNE DELACROIX	5 ウジェーヌ・ドラクロワ p.9
	GUSTAVE MOREAU	6 ギュスターヴ・モロー p.10
	LOUIS PASTEUR	7 パスツール p.11
	HONORÉ DE BALZAC	8 バルザック p.12
	GEORGES CLEMENCEAU	9 クレマンソー p.13
	LE CORBUSIER	10 ル・コルビュジエ p.14
	SEINE-ET-MARNE	セーヌ＝エ＝マルヌ県
	ROSA BONHEUR	11 ローザ・ボヌール p.17
	STÉPHANE MALLARMÉ	12 ステファヌ・マラルメ p.18
	LOUIS BRAILLE	13 ルイ・ブライユ p.15
	PIERRE MAC ORLAN	14 ピエール・マツコルラン p.16
	YVELINES	イヴリーヌ県
	NADIA ET LILI BOULANGER	15 ナディアとリリ・ブランジェ p.20
	CARLO MAROCHETTI	16 カルロ・マロケッティ p.30
	EMILE ZOLA	17 エミール・ゾラ p.24
	MAURICE MAETERLINCK	18 モーリス・メーテルリンク p.23
	CLAUDE DEBUSSY	19 クロード・ドビュッシー p.27
	ALEXANDRE DUMAS	20 アレクサンドル・デュマ p.22
	MAURICE DENIS	21 モーリス・ドニ p.28
	MAURICE RAVEL	22 モーリス・ラヴェル p.25
	JEAN MONNET	23 ジャン・モネ p.19
	ELSA TRIOLET ET LOUIS ARAGON	24 エルザ・トリオレ ルイ・アラゴン p.26
	RAYMOND DEVOS	25 レーモン・ドゥヴオス p.29
	LÉON BLUM	26 レオン・ブルム p.21
	ESSONNE	エソンヌ県
	LÉONARD FOIJITA	27 フジタ p.32
	JEAN COCTEAU	28 ジャン・コクトー p.31
	GUSTAVE CAILLEBOTTE	29 カイユボット p.33
	HAUTS-DE-SEINE	オー＝ド＝セーヌ県
	FRANÇOIS-RENÉ DE CHATEAUBRIAND	30 シャトーブリアン p.35
	LÉON GAMBETTA	31 レオン・ガンベッタ p.37
	AUGUSTE RODIN	32 ロダン p.36
	PAUL MARMOTTAN	33 ポール・マルモットタン p.34
	VAL-D'OISE	ヴァル＝ドワーズ県
	CHARLES-FRANÇOIS DAUBIGNY	34 ドービニー p.39
	ÉMILE BOGGIO	35 エミリオ・ボッジオ p.38
	DOCTEUR GACHET	36 医師ガシェ p.40
	JEAN-JACQUES ROUSSEAU	37 ジャン＝ジャック・ルソー p.41





凡例

児童向け	
音声ガイド (Nカ国言語)	
手話ガイド用タブレット	
手話ガイドがいます	
身体障害者の見学可能	
知的障害者の見学可能	
聴覚障害者の見学可能	
視覚障害者の見学可能	

ラベル 観光と障害



歴史的記念物	
フランス国定美術館・博物館	
20世紀遺産	
注目すべき庭園	
作家ゆかりの家と文学遺産連盟	
「ヨーロッパの父」の家・博物館網	

乗用車でのアクセス	
トランシリアン (イル=ド=フランス地域圏フランス国鉄網)	
イル=ド=フランス地域圏急行鉄道網	
メトロ	
バス	



2018 
ANNÉE EUROPÉENNE
DU PATRIMOINE
CULTUREL
[#EuropeForCulture](https://www.europeforculture.eu)

MAISONS DES ILLUSTRÉS
EN ÎLE-DE-FRANCE
2018

ISBN 978-2-11-152579-5



9 782111 525795